

常設展示

抽象から星へ

星襄一 作品展

2026 **1/14**(wed) — **3/1**(sun)

開館時間 9:00~20:00

* 月曜日休館 (祝日の場合は翌平日)

本展では、星襄一の初期から中期にかけての作品を通して、代表作〈樹〉シリーズに至るまでの歩みを展示いたします。

抽象から具象へ——モチーフの変遷とともに深まる表現の探求をご覧ください。

星襄一 聖夜星座27番 1966

オーエンス八千代市民ギャラリー

＜お問合せ先＞

オーエンス八千代市民ギャラリー事務室 047(406)4116

〒276-0028 八千代市村上2510



ギャラリーHP



アクセスmap



「星の森(小)」 1971

Hoshi Jouichi 星 襄 一

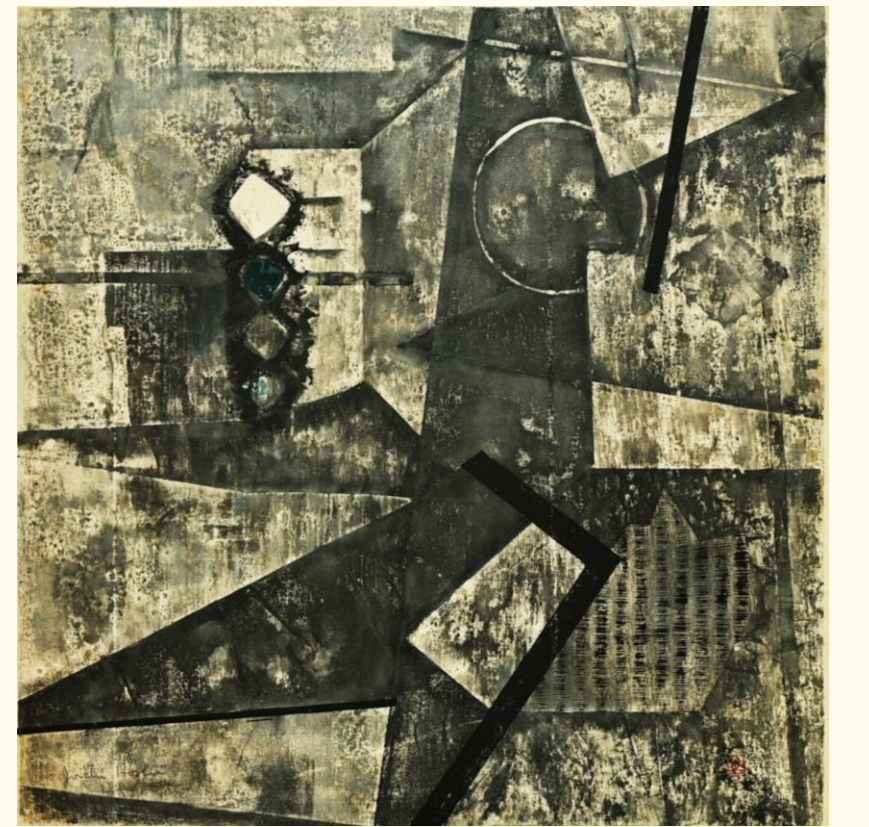
—抽象から星へ— 1958-1971

1958年から1971年にかけての星襄一作品には、抽象的な形の探求から、より身近な自然へのまなざしに向かう表現の変化が見られます。初期の抽象作品から「星」「星座」「銀河」といった天体のモチーフを経て、やがて「地平」そして「樹」、大地へと至るその歩みは、作家自身の視点の移り変わりを映し出しています。

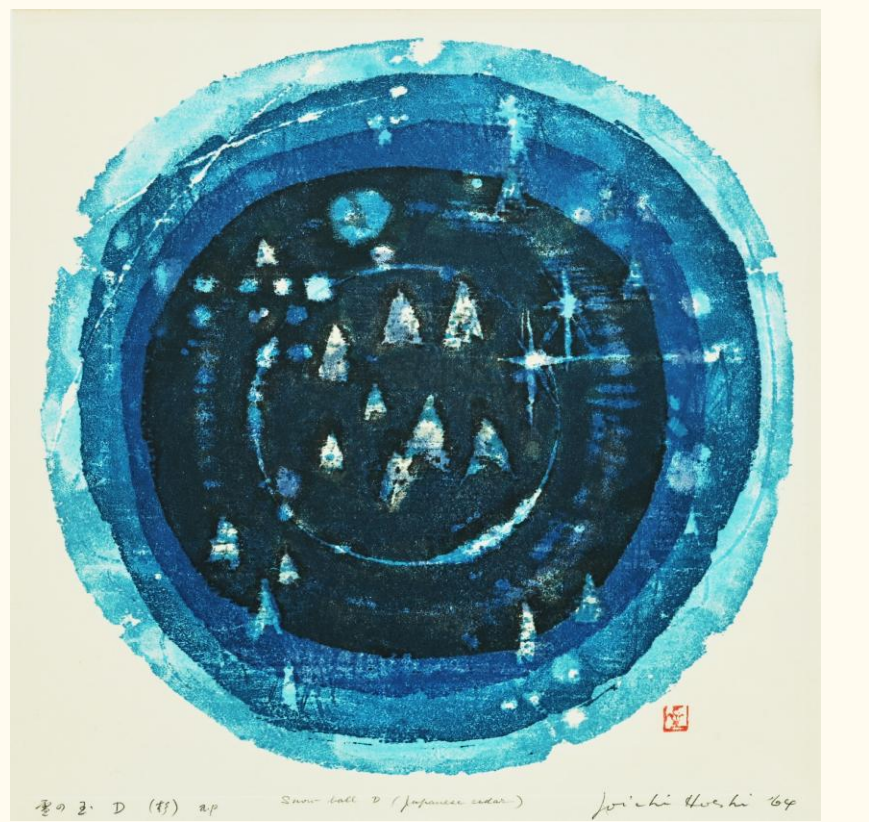
※星襄一作品展～版画制作の工程～202510/1-12/28の「樹」シリーズに続く、初期から中期作品を中心とした構成です。

対象の変化は、外界を見つめる眼差しの変化であり、同時に星襄一が生きた時間の流れそのものでもあります。ひとりの作家が、自らの内と外、抽象と具象のあわいを往還しながら形を探り続けた道のり。その過程にある作品群には、限りあるいのちを生きる人間が、なにか永遠のあるものへと手を伸ばそうとする静かな祈りが込められています。

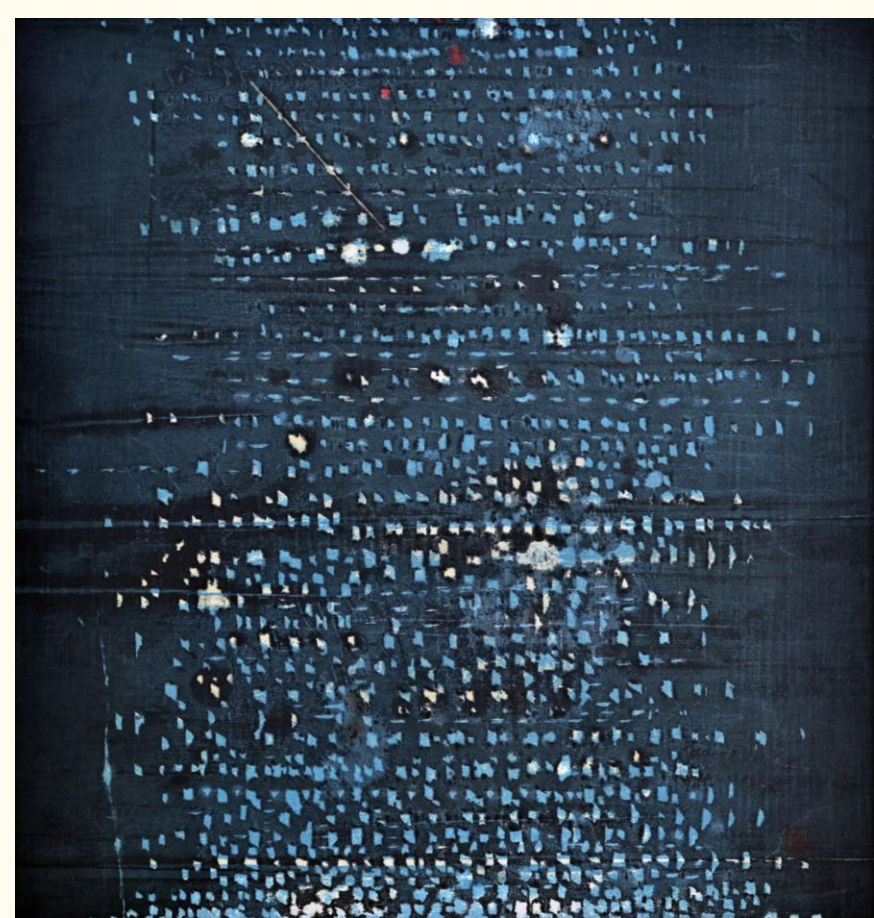
本展では、星襄一が歩んだ制作の時間をたどりながら、その変化のなかに見える人生と表現の深化をご覧ください。



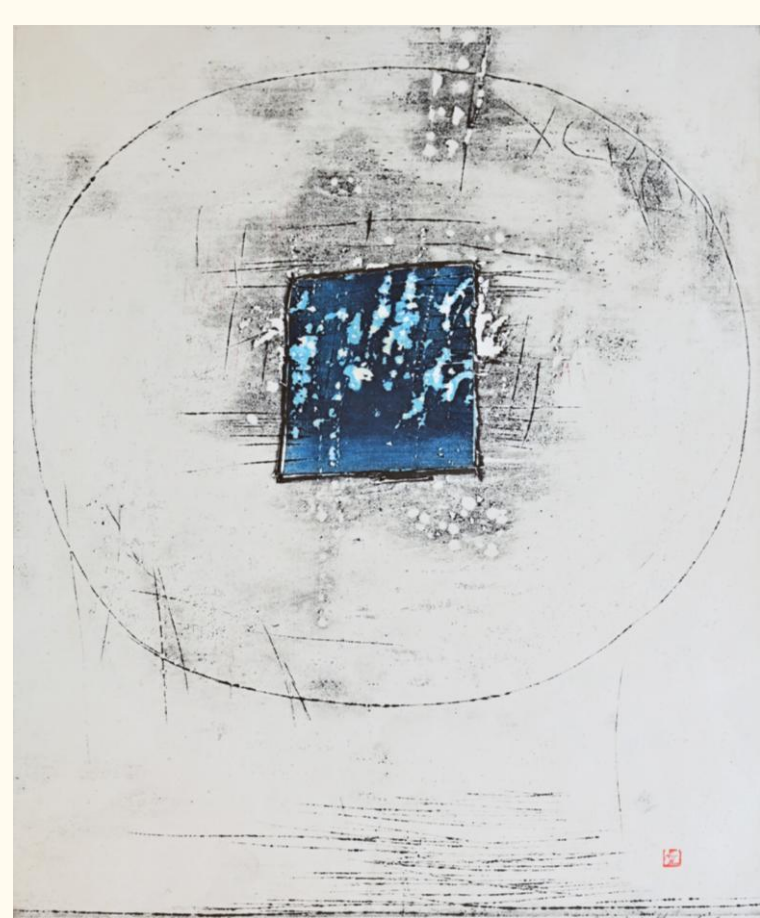
「冬の歌」 1958



「雪の玉(D)杉」 1964



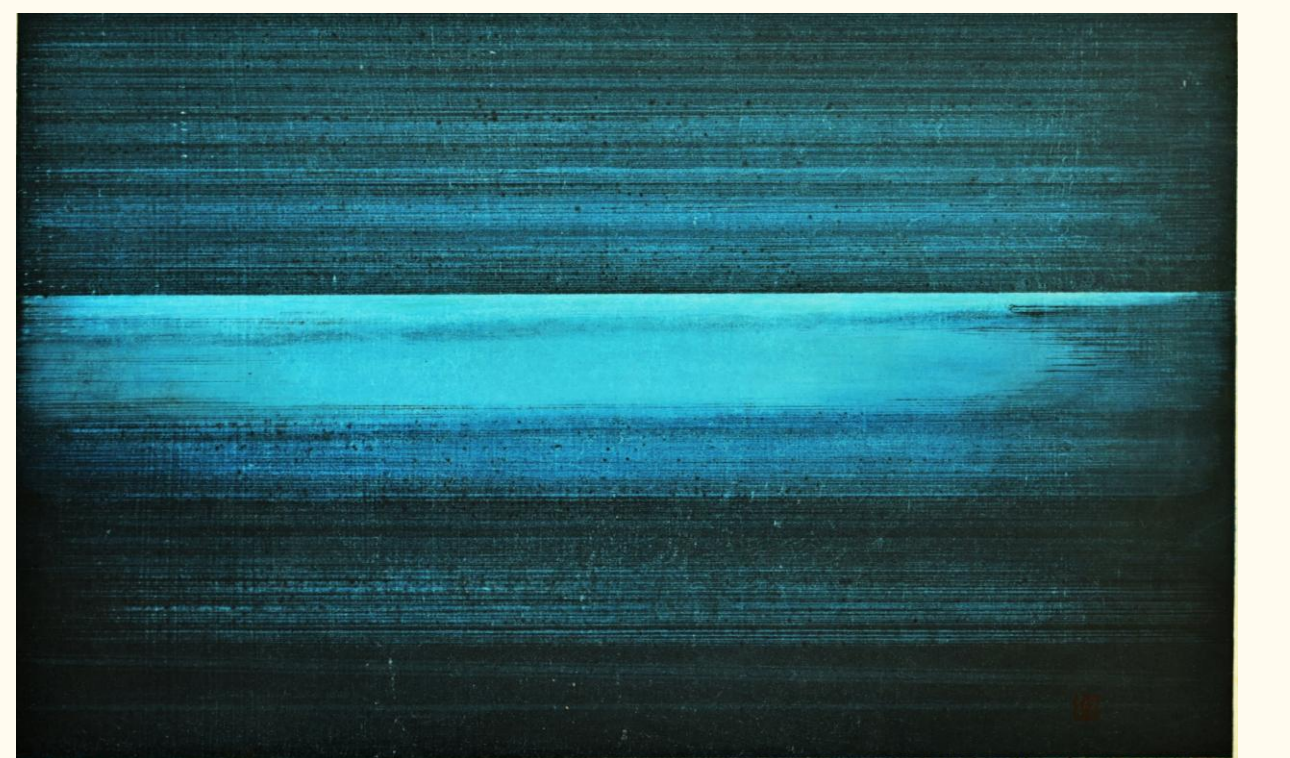
「星座30番」 1966



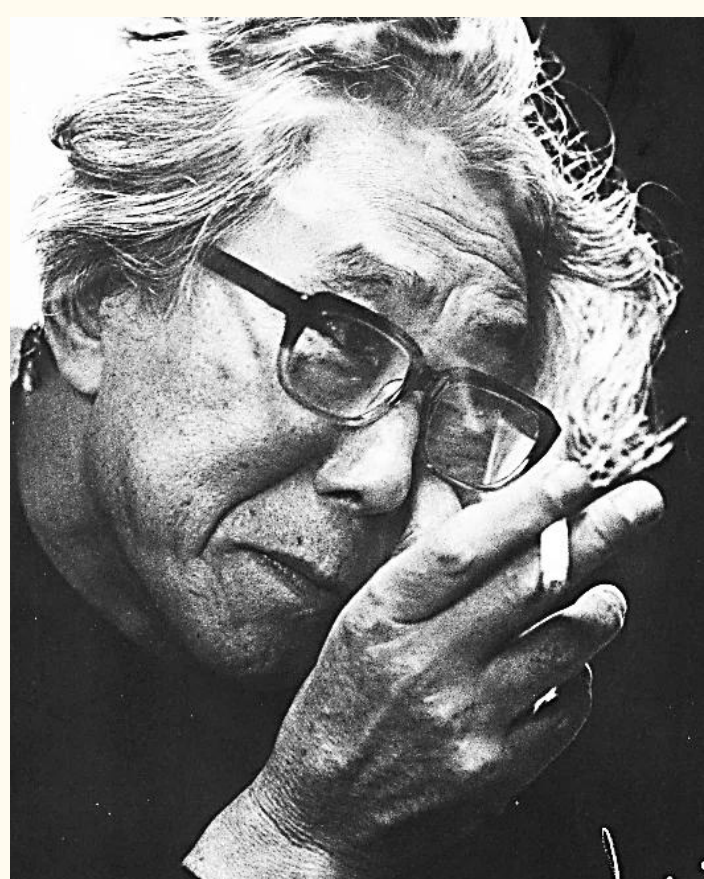
「星座42番」 1967



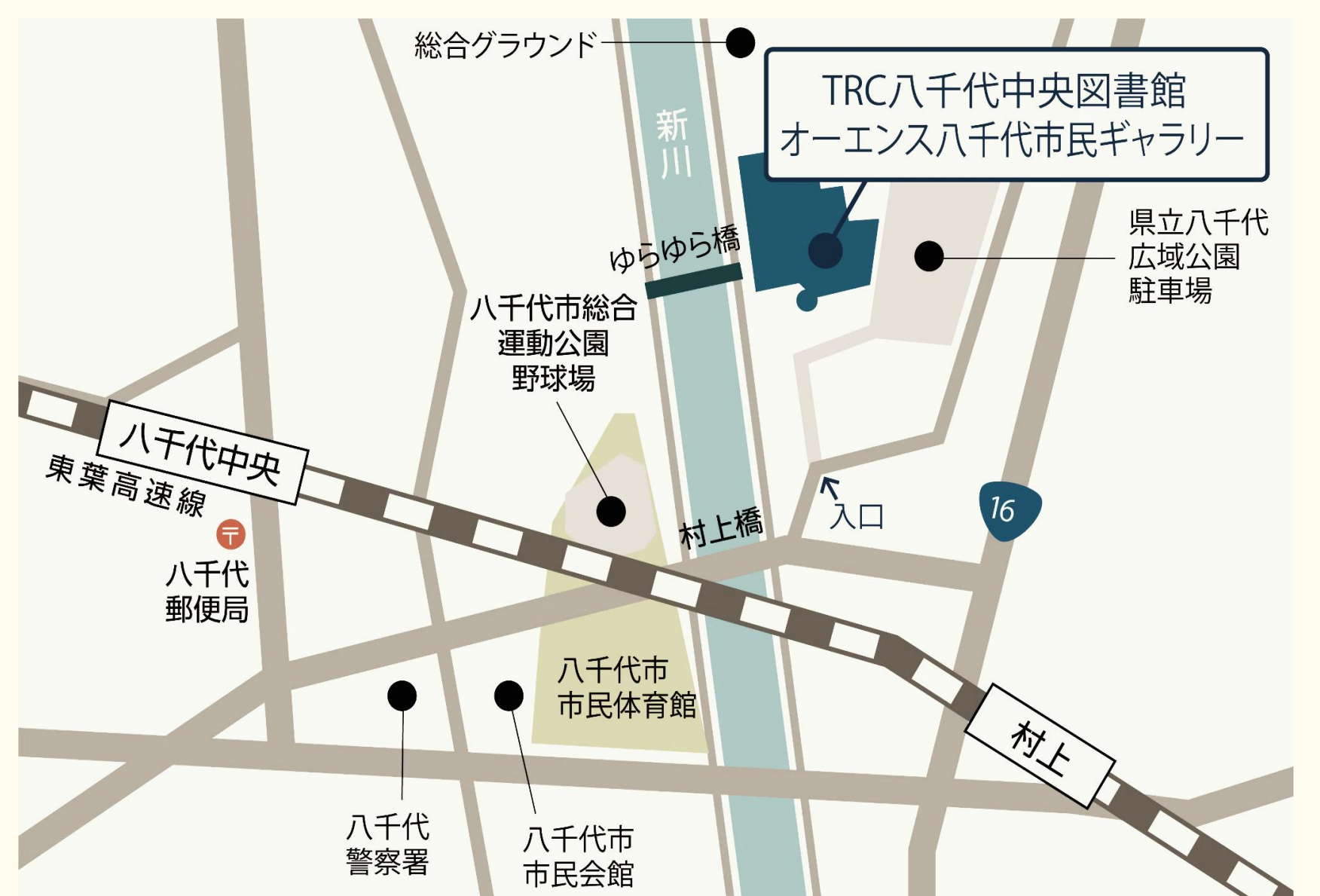
「銀河(F)大」 1968



「地平B」 1971



- 1913年 新潟県生まれ。
- 1932年 台南師範学校卒業後、現地にて教職を13年間務める。
- 1946年 台湾より引揚げ、印刷業を営みながら孔版画を始める。
- 1949年 日本版画協会展で根市賞。
- 1956年 42歳で武蔵野美術学校を卒業し、木版画を独習。
- 1959年 国画賞。
- 1960年 国画会会員に推挙。
- 1965年 十日町市の江戸屋織物の依頼により、木版手摺り塩瀬帯の製作に携わる。
- 1979年 66歳八千代市の自宅で永眠。



〒276-0028 八千代市村上2510